

# わおん 通信

2014  
秋号  
vol.14

特集

## 「木」と「人」から生まれる エネルギーと地域のつくり方



### CONTENTS

P2

#### 県内地域の取り組み

紀の川市民まつり  
「里山の生き物観察会」を開催  
夏休みエネルギー体験教室

P3

#### クレジット活用で健全な森づくり 木の国エコ・リレー推進協発足

P4 - P5

#### 「木」と「人」から生まれる エネルギーと地域のつくり方

P6

#### 県情報 なるほど ザ・ワード

P7

#### 推進員さん訪問記⑩

P8

#### INFORMATION

## 紀の川 市民まつり

2014年8月17日  
[紀の川市地球温暖化対策協議会]



今年も紀の川市協議会がまつりに参加しました。私は初参加でしたが具体的な啓発活動について知る機会となりました。ブースの目玉は自転車漕いで発電する体験コーナーです。小学生から高校生、若いお父さんたちまで、来場者が積極的に参加していました。思ったよりも発電させる



「推進員」原 伸行

ことが難しく、日頃なにげなく使っている電気の大切さを実感した様子でした。その傍らでは、お母さんたちを対象に節電プロジェクトの参加説明をしたり、家庭の様子を聞きながら対策をアドバイスする省エネ診断を受けたりしていました。まだまだ地球温暖化対策への理解は足りませんが、訪れた方は関心を示していただけでも多く、このような活動を継続していくことに意味があると思ひ、活動への理解の輪が、そして実践の輪が広がっていくことを願いました。

## 「里山の生き物観察会」 を開催

2014年8月24日  
[伊都橋本地球温暖化対策協議会]

夏休みの最後の思い出として、橋本市柱本の芋谷において「里山の生き物観察会」が開催されました。このイベントは「海に触れ、山に遊び、自然の中で生命の尊さを学ぼう」というSAVE JAPANプロジェクトとして、海辺の教室、わかやまNPOセンター、橋本市里山学校の共同開催で実施されたもので、和歌山市の海辺の教室25名、里山学校の子供たち・保護者17名、大学・高校生のボランティア20名、企画ス



タッフ6名、観察ガイド4名、ミニコンサート演奏者6名、地元柱本地区の方25名と、総勢100名を超える参加者が集うイベントになりました。参加した子供たちは、芋谷の小川や田んぼ、水路、ビオトープで、カエルや魚、カニなどを採集して実際に触ったり、観察ガイドの指導で名前を確認したりして、里山の生き物に触れることができた1日となりました。観察会後は、田園の中でバイオリンやオカリナのミニ演奏会も開催

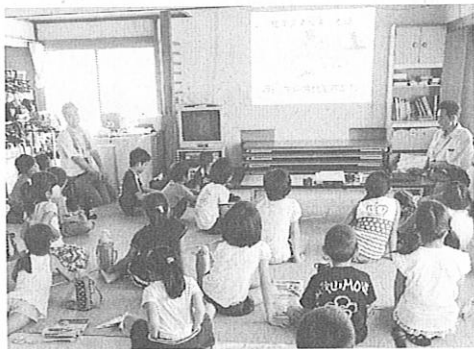
され、自然とのハーモニーを楽しむこともできました。和歌山の任意団体「海辺の教室」からの参加者は、里山の生き物は初めての子どもたちもおり、橋本市の里山学校の子供たちに教えてもらったことで、交流も深めることができました。こういったイベントは今後とも継続して実施していきたいと実感しました。

「推進員」黒井 成男

## 夏休みエネルギー 体験教室

2014年8月18日～25日  
[海南市・学童保育NPO]

県センターは、節電・省エネの取り組みの一環として、学校向け出前講座に取り組んでいます。今回、海南市で学童保育施設を運営するNPOが



ら依頼があり、下津、大東、南野上、加茂川の4つの小学校に隣接する施設で行いました。低学年を中心に夏休み期間中に施設を利用する子どもたち78名を対象に、エネルギーと温暖化について学ぶ機会となりました。今回は、夏の日差しをフル活用できる「ソーラークッカー」づくりを実施。残念ながら太陽は出るものの微妙な天候と強風のため、なかなかうまくいきませんでした。しかし、人力発電体験やクイズ形式の温暖化学習会など、充実したプログラムでした。参加した子どもたちは、鏡張りの直径約80cmのパラ



ボラアンテナのような装置に目を輝かせて、できあがったポップコーンをうれしそうに食べる姿が印象的でした。  
現在、京都市ではこうした子ども向けの環境学習に力を入れており、地域のNPO団体が全小学校に出前授業を行っています。和歌山でも環境学習の実施校を増やしていけるよう、さらに協議会、推進員の積極的な活動が不可欠だと実感しました。

「推進員…外園春海」

## クレジット活用で健全な森づくり

●●● 木の国エコ・リレー推進協発足 ●●●

和歌山の森林を二酸化炭素吸収源として健全に育てることで認証された排出権（クレジット）をテコに、環境に良い活動をつなぎ広げる「木の国エコ・リレー推進協議会」（石橋幸四郎会長）が8月11日、県内の企業、林業・製材事業者、環境NPO、学識経験者らにより設立されました。事務局はNPOわかやま環境ネットワーク。

クレジットを仲介活用する団体は県内では初めて。同協会正会員には毎年1トン分のクレジットが交付され、会員が提供する商品やサービス、イベントなどの\*カーボン・オフセットに充てられるほか、同協会の認証を受けてこれを顧客等にアピールできます。同協会はこの仕組みを木の国和歌山の森林育成や地域振興に活かすことをめざしており、12月11日(木)に賛同者を募るためのイベントを開くことにしています。

（8ページ「インフォメーション」参照）



\*カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動において避けることができないCO<sub>2</sub>等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減 努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方です。イギリスを始めとした欧州、米国、豪州等での取組が活発であり、我が国でも民間での取組が拡がりつつあります。

[環境省ホームページ：[http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon\\_offset.html](http://www.env.go.jp/earth/ondanka/mechanism/carbon_offset.html)]

森と地域のつながりを守るため、全国各地で展開している「木の駅」。かつて「木の国」とも呼ばれ、豊富な木々に囲まれた和歌山で、保全活動を行う市民を中心に本格的な活動が始まろうとしています。和歌山のこれまでの取り組みと、これからの「木の駅」についてクローズアップしていきます。

### 「木の駅」とは



智頭木の駅 [鳥取県智頭町]

流通する木材は一般にAからCまでランク付けされ、太く真っ直ぐな木材はA材として建材に、そ

こまででないものはB材として合板や集成材になり、さらに細いものや曲がったものはC材として紙の原料などに使われています。しかし、C材は価格が安いので、採算面からどうしても林業の対象としては扱いにくく、山に放置されがちです。

地域の住民が手の空いた時間にこんなC材を拾ったり、自ら間伐したりして山から運び出し、その経費を差し引いても晩酌代くらい

は残る価格で売れるよう工夫した木材の集積場所が木の駅で、その代金には一般に地域通貨が使用されます。この仕組みが荒れた森を再生させ、またお金が地域内に循環し山村の活性化にも役立つと注目されているのです。

最初の木の駅が立ち上がったのが2009年、以来全国各地で設立が相次ぎ今年9月現在で、木の駅は28地域へと急速に広がっています。

### 和歌山県の場合

#### 山づくり = 木を活かすということ

「山を守る」と聞いて何をイメージするでしょう。まさきに思うのは「木を植えること」。でもそれだけだけでは山は豊かになりません。

「木を植えようと山に入ったら、すごく荒れている状況を見てしまっ、これはちゃんとしてからじゃないと植樹は無理とって」

と、紀南地域温暖化対策協議会の多田裕之代表が当時の様子を語ってくださ

た。以来、森を整備する方法を模索して2012年秋、協議会メンバーたちと「紀南まきぐらしネット」を設立。薪ストーブオーナー



らと一緒に荒れた山から放置された木材を運び出し、薪づくりに汗を流しています。

#### 薪ストーブ利用者の声 ~ 紀南薪ぐらしネットメンバー 安宅さんの場合 ~

薪ストーブは家を建てる際、建築士からの提案が知るきっかけでした。湯沸しや調理にも使え、一台で広い面積を暖めてくれる点が魅力とのこと。揺らめく炎、包み込むような暖かさは何ものにも代えがたい。ストーブを使っているお宅でお話を伺い、暖かさを感じられたことが導入の決め手となりました。現在ストーブ前の特等席はいつもペットに占領されています。

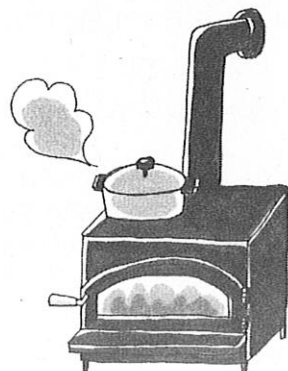
薪ストーブを通じて紀南薪ぐらしネットに所属、薪の調達に携わっています。農業や山に詳しい

方々から、実体験や現場のお話をいただくことは大変刺激的です。薪ストーブを通じてこのような交流ができることは願ってもない財産となりました。

ストーブを検討されている方に一言

当初、薪ストーブなんて贅沢品と思っていました。しかし、今後の資源高や円安を背景に、地産地消の薪の優位性はさらに高まると思います。電気を使わないため、災害時でも大活躍します。「木の駅」が始動すれば、さらに調達のリスクも緩和されるでしょう。和

歌山はまさに「木の国」です。未利用材を利用して、「心も体も、懐もあつたかに！」そして、温暖化対策にも貢献できれば、素晴らしいことだと思います！



## 山に入ると 町や村が変わる

夢はエネルギーの地域自給

全国で着々と進む「木の駅」から広がる夢は「エネルギーの自給と自治」です。木の駅設置をきっかけに、来春開業予定の特別養護老人施設に薪ボイラーを導入する長野県根羽村、温水プールの熱源に薪ボイラーを導入する鳥取県智頭町、木質バイオマス発電に取り組む栃木県那賀川町など、森林をエネルギーも生む宝の山として生か

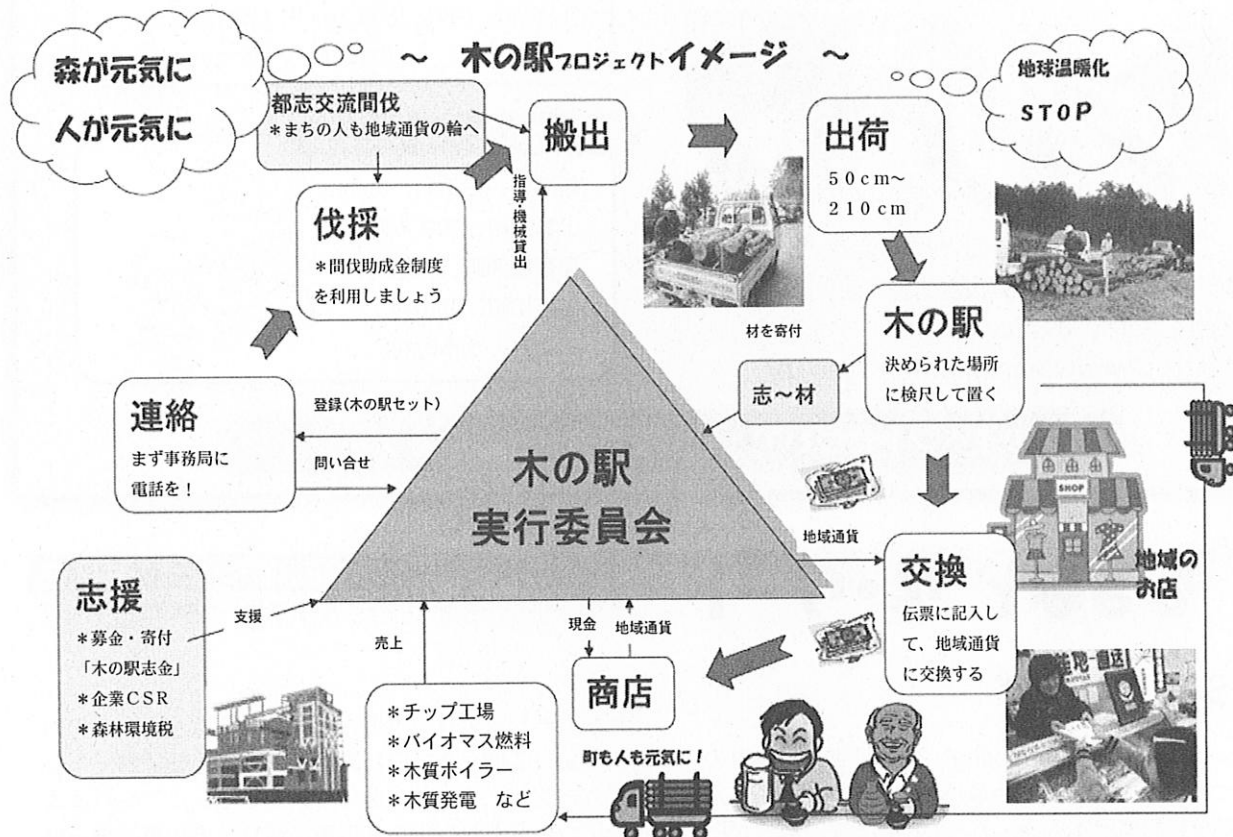
す取り組みが各地で相次いでいます。地域が使用するエネルギー、石油や電気の代金は地域外に出て行ってしまいますが、地元で賄えば地域に新たなお金の循環が生まれ、豊かな暮らしにつながる可能性があります。

それだけでなく、エネルギーの地域自給力を高めることは、地域に新たな人間関係を作ることにつ

『山で放りっぱなしになっている木（林地残材）を「木の駅」に出荷して、山をきれいにして、町が元気になって、地球温暖化ストップに少し役に立って、そして自分にはご褒美の晩酌を・・・。』

「木の駅プロジェクト」のwebサイトにはこう書かれています。森林整備をやると町や人が元気になるとは一体どんなことでしょうか。

ながり、地方自治の新たな可能性を切り開くことにつながります。山を整備して得た恵みをどう活かすか、全国の木の駅は“兄弟”として明日を見つめ、情報交換をおこなっています。全国の同志を先輩として迎え、これから「木の駅をはじめたい」と考える人々が集うサミットを開催します。



木の駅プロジェクト Web サイト [URL <http://kinoeki.org>]

「木の駅サミット in わかやま開催決定！」

詳しくは8p インフォメーション

エネルギーと地域のつくり方

# 南紀熊野が ジオパークに 認定



南紀熊野ジオパーク

2014年8月28日



橋杭岩で発表の瞬間を喜ぶ関係者約70名

日本ジオパーク委員会が開催され、審査の結果、「南紀熊野」地域が日本ジオパークに認定されました。

## ◆南紀熊野の認定のポイント

- ・熊野の自然や文化
- ・熱意を持った地域住民
- ・50名以上のジオガイド

## ◆見どころ



03 優秀賞 褶曲



06 神倉山のゴトビキ岩

フェニック褶曲やゴトビキ岩など  
102か所の見どころがあります。

詳しくは、ホームページで

<http://www.nankikumanogeo.jp/>

## ジオパークとは？

その地域の大地のなりたちを知るだけでなく、歴史・文化・動植物・食などを通じて、大地と人の暮らしの関わりを楽しむところです。

日本には36地域の日本ジオパークがあり、そのうち7地域は世界ジオパークにも認定されています。(平成26年10月1日現在)

<http://www.geopark.jp>

## 南紀熊野ジオパークの範囲

新宮市、白浜町、  
上富田町、すさみ町、  
那智勝浦町、太地町、  
古座川町、北山村、  
串本町の9市町村。



今後のイベントについて 詳しくは8P インフォメーション

## なるほどサ・ワード

### カーシェアリング

カーシェアリング(carsharing)を直訳すれば「車の共有」。つまり、登録された会員が利用料を支払って特定の自動車を共同使用するシステムのことです。自分が所有していない車を利用する点ではレンタカーと同じですが、誰でも利用可能なレンタカーとは違い会員制であること、レンタカーより短時間の利用を想定した料金設定になっていることなどに違いがあります。つまり、レンタカーが旅行など非日常的で比較的長時間の用途に向くのにに対し、買い物や通勤通学など日常的な用途に向くのがカーシェアリングです。

家庭の車は圧倒的に日常用途で使用されているため、

### STOP温暖化・焦点の言葉 10

\*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

これがカーシェアリングでカバーできるなら、多くのコストを払って個々の家庭が車を所有する必要はありません。カーシェアリングが進んだ地域ではシェアされる車1台につき10台以上自家用車が減り、また車に乗る機会や距離がともに大幅に減って公共交通が利用され、あわせて家庭における自動車起源のCO<sub>2</sub>排出が劇的に減ったと報告されています。

このようにカーシェアリングは家計にも環境にも優しいシステムです。利用者が多い都市部から普及し始めていますが、車からのCO<sub>2</sub>排出は和歌山のように公共交通が不便な地域でこそ大きいのですから、こうした地域での急速な普及への取り組みが望まれます。

コジロー(センター長)の

# 推進員<sup>ひよっこ</sup>さん〇〇訪問記<sup>⑩</sup>

谷野優子さんとエコアミーゴ



岩出市 谷野 優子 さん

9月23日の秋分の日。県立体育館で開催された「ふれあいフェスタ」で、温暖化防止ブースのスタッフとして活動する谷野優子さんを訪ねました。

谷野さんは岩出市にお住いの推進員5期生。鹿児島県出身で、同郷の友だった先輩推進員より、「これから地球は大変なことになるかも、しっかり勉強してみない」と誘われ、養成講座に参加しました。

4日間にわたる講座は楽しかったのですが分からないことも多く、例えばサラッとと言われる地表のCO2濃度でも「一体どんな風に測るのかなぁ…」と、基本的なことがいくつも気になって仕方がない。そのつど質問もしましたが、講座は修了してもこの程度では、とても他の人に伝えられないと思ったのも事実でした。

そんなところへ同期の伴場柴郎さんから、「卒業してからも勉強を続けよう」とお誘いがあったので喜んで参加。伴場さんの呼びかけに応えた有志で話し合っただけで5期生全員に手紙を送り、一緒に勉強しようと思ったのが「エコアミーゴ」という集まりでした。アミはフランス語で「友」、「ゴ」は五期生の五で、あわせて「アミーゴ」もスペイン語では「友」になります。

エコアミーゴの勉強会は毎月1回を基本に、暑いときや忙しいときは順延するなど無理をしないのがモットー。内容は新聞の切り抜きやビデオを持ち寄って話し合ったり、活動の経験を交流した



エコアミーゴのみなさん

左から伴場さん、谷野さん、永山久晴さん、木村俊雄さん

り、リサイクル業者や市職員の話の聞いたりとなかなか多彩です。

始めた当初は、多くの五期生に参加してもらおうと努力しましたが、人集めも毎回では疲れてしまうので、この面でも無理をしないことにしました。集まれる人が集まって、自分が興味のあることを話し合っただけで、一人ひとりにできることが見つければいいな…といった軽いタッチで続けてもう6年。毎回6~7人のささやかな集まりですが、お互いの気心も知れて、時にはこの日のように県センターの活動にスタッフとして参加したり、「暑気払い」と称して懇親の会を開いたり、楽しく息長く活動していこうとがんばっています。

==勉強会は役に立ちますか？

「伴場さんがすごいので…、いらん電気は消せって市役所に言いに行くんですから」

「自分も、例えばアイドリングしてるバスの運転手さんに、「こんなきれいな自然の中ですからやめませんか」って、言えるようになりたいです」

==自分の今の活動については？

「大きなことはできないけど、小さいこと、自分の身の回りのことで、気づいたことは行動に移したい」

「レジ袋はまた無料に戻ったけど、自分はマイバッグを必ず持って、「あの人、自分もやってないやん」って言われないようにして、それから自信をもって他人に勧めるようにしています」

==これから抱負は？

「広島土砂崩れとか見ても、これから本当に大変になるって、誰でも感じてると思うから、今が啓発するチャンスじゃないですか」

「そんなに感じている人たちに、ちょっとでもできることをしっかり提起していけたらいいな」

と、はにかみながら話される谷野さん。大勢の来場者でにぎわう会場の一角で、この日ご参加のエコアミーゴのお仲間と一緒に写真に収まってもらって取材を終えました。

イベント案内

●わかやま「節電所」建設プロジェクト 締めきり間近 10月31日(金) [当日消印有効]

●南紀熊野ジオパーク認定記念イベント

日時 2014年11月1日(土) 「三県境ジオツアー」 (新宮市・北山村・三重県熊野市)

■定員：20名 (募集×切10月29日)

■担当：和歌山県自然環境室 (南紀熊野ジオパーク推進協議会事務局) 橋爪・谷脇 TEL：073-441-2780

●地域の関係団体主催の南紀熊野ジオパーク認定記念イベント

日時 2014年10月31日(金) 「橋杭岩ライトアップ」 主催：串本町  
～11月2日(日)

2014年11月15日(土) 「荒船海岸ジオウォーク」 主催：古座観光協会

2014年12月16日(火) 「熊野学パネル展 熊野・自然との共生  
～大地に育まれた多様性」  
～2015年1月11日(日) 主催：新宮市・熊野学研究委員会・明治大学

●「ふるさとの森を守るためにできること」

カーボン・オフセットと「木の国エコ企業認定制度」学習会

日時 2014年12月11日(木) 県民プラザわかやまビッグ愛 9階 会議室C (和歌山市手平2丁目1-2)  
14:30～(受付 14:00～)

■主催：木の国エコ・リレー推進協議会 TEL：073-499-4734 ■定員：50名 ■受講料：無料

●わかやまの森を体感するイベント

第1段 「参じる森・感じる森 —— 森の参感日」 (仮題)

日時 2015年1月18日(日) 紀州備長炭振興館～周辺の森林 (終日)  
JR和歌山駅発の観光バスにて移動

第2段 「森を知り 安全を守る —— 安全講習会」

日時 2015年2月1日(日) みなべ町または田辺市の森林 (調整中)  
森づくりに欠かせない道具の扱い方と、フィールドでの実践的講習

第3段 「全国の熱い取り組みとの交流 —— 第4回木の駅サミットinわかやま」

日時 2015年2月21日(土)、22日(日)

鶴の湯温泉 (みなべ町)

全国に広がる「木の駅」の  
兄弟らが和歌山に集います



第3回木の駅サミットin上石津

■主催：NPOわかやま環境ネットワーク 事務局 TEL：073-499-4734

2014 秋号 vol.14



発行／和歌山県環境生活総務課  
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1  
TEL：073-441-2690 FAX：073-433-3590  
mail：e0317001@pref.wakayama.lg.jp

編集・お問合わせ／和歌山県地球温暖化防止活動推進センター  
〒641-0014 和歌山市毛見996-2  
TEL：073-499-4734 FAX：073-499-4735  
mail：wenet@vaw.ne.jp



この情報誌は古紙配合率100%  
再生紙を使用しています。